心のつながりシート



日本介助犬協会の方との交流を通して

障害のある方の生活を理解する



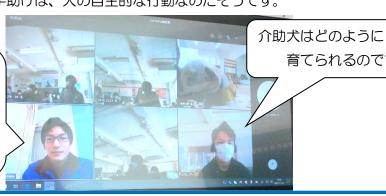


令和3年11月13日、土曜公開授業で 3年生を対象とした総合的な学習の時間に、 愛知県の社会福祉法人日本介助犬協会の方か ら、手や足に障害のある方の生活動作を手助 けする介助犬について学びました。

介助犬は令和3年10月1日現在、全国に 57 頭いるそうです。手足が不自由な方のお手 伝いをする犬として、扉を閉める、冷蔵庫を開 けて飲み物を持ってくる、靴下を脱がしてあ げるなどのことができます。

その様子をオンラインで紹介いただき、生徒からの質問にも答えていただきました。特に印象に残っ たのは、「介助犬は、働かされているのではない。喜んでもらえることが嬉しいと思っている。」という 職員の方の言葉です。一連の手助けは、犬の自主的な行動なのだそうです。

ボランティアの方に愛情 を注いで育ててもらった 後に、訓練センターでトレ ーニングを始めます。1年 ぐらいかかります。



育てられるのですか。

〈授業に参加した生徒の声〉

介助犬のできることの多さや能力の高さを知りました。特に、距離の離れたところから携帯を持って くる際の器用さに感動しました。今後の生活の中で、車椅子の方がいたときに心配りをしていきたいで す。また、家族と今日の学びを話していきたいです。

<地域の方より寄せられた声>

障害者の方の理解していくことはとても大切な学びです。オンラインにより、介助犬の様子を知り、 生徒たちはこのテーマを身近に感じて考えることができたと思います。

学校名:杉並区立向陽中学校